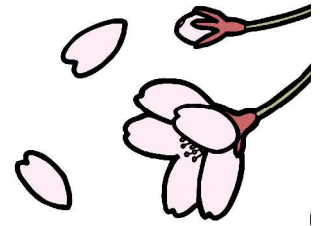
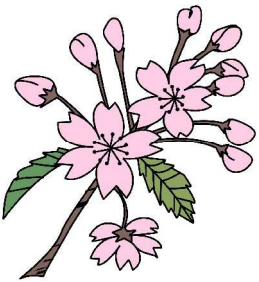


1日目、今アメリカ、ノースカロライナで教育の場でおこなわれている
コンサルテーションの実際についての詳しいお話がありました。
コンサルテーションとは問題を解決の計画を立てようとする人（教師）と、
その努力を援助しようとする人の間に構築される、専門家同士の支援の過程の
ことです。このコンサルテーションによりコンサルタントから問題解決の
過程を学び、自分たちで問題解決に結びつくよう「人」を支援しています。
またこの協力体制で必要な考え方や方法を学びました。



2日目、日本の4例の実践報告がありました。（佐賀、横浜、京都、香川）
この4例中3例が養護学校の取り組みでした。今、養護学校では、養護学校そのものがセンター的
役割を求められているところが多いようです。そしてその養護学校では学校全体（チーム:相談支援
部として数名）の専門性の向上と校内体制の確立が不可欠となり、組織と意識の改革を進めつつ様々
な取り組みを展開していました。例えば、ある学校では、従来の教育相談に加えて、巡回相談（幼、
保園、小、中、高に出向きます）、公開講座、各種研修、支援会議を実施されており、具体的な取り
組みとして、今年度当初、小1担当職員は新入学児童の卒園先と保護者と連携し児童に関する情報を
収集しアセスメントするところからはじめ、入学当日から環境を出来るだけ整えそれぞれに応じた視
覚支援などを準備し自立的な生活に向けて教育の支援をスタートさせます。（個に合わせ再調整も行っ
ていきます）保護者、関係機関の職員（卒園先、行政）、学校の先生が一堂に会して「支援会議」を
実施し、3年先を視野に入れた教育支援の方向性を確認されているということです。



「入学したばかりの児童でも、早い段階から将来の自立的生活を意識した
教育計画を積み重ねていくことの重要性を、チームとして意識し自覚を
持てた」と感想を話してみえました。関係する支援者や保護者などと
相談し、自閉症の特性理解と本人のニーズに応じることを大切にしながら
チームを意識した教育支援を進めてみえました。

そしてさらに先に進んだ地域では就学前のペアレントトレーニング、ソーシャルスキルグループ
なども整備されていました。

ドカティー先生のコメントの中でも特に印象に残ったものを挙げてみたいと思います

「支援会議とはお互いを支えあうものである事。誰も一人ではできない。」
それは、あまりにも負担が大きすぎるからです。チームのメンバーひとりひとりが必要であり、ひと
つの問題を検討することや、解決するためには、必要なことの全てをひとりで知っている人はいない。
チームのメンバーの弱み、強み（ひとりひとりが違う）ことを認識して役割分担していくこと
が必要だということです。ひとりで頑張りすぎないこと、周りとの協力し合ってチームを作ることも重
要なことですね。

日本での先駆的な取り組み、私たちの地域でも、始まって欲しいと思います。

そして、その支援会議に保護者として、支援者として参加ができたときは、ひとりひとりがその子と
かかわる大切なメンバーとしてお互いを認めあい、支えあいながら子ども達の為より豊かな柱となっ
て支えあっていきましょう。

